

書 評

スポーツ医学を志す君たちへ

武藤芳照 著

本書は武藤芳照先生の記念すべき100冊目となる著書である。武藤先生のすごさは、著作数の多さだけではなく、そのバリエーションの豊富さにある。医学書はもとより、岩波新書などの一般書、さらに絵本などの児童書にまで及ぶ。武藤先生には現在、本誌『整形・災害外科』においても、「スポーツ医学 つれづれ草」という連載コラムをご執筆いただいている。

100冊目となる本書『スポーツ医学を志す君たちへ』は、文字通り若き学生や医療者に向けたスポーツ医学の入門書であるが、同時に、武藤先生がこれまで整形外科医として、そしてスポーツ医学者として歩んで来られた道のりと、数々の研究活動・業績が凝縮された集大成とも言える一冊となっている。

「水泳のスポーツ医学」「五輪代表チームサポート」「身体教育学」「学校運動器検診」「運動器の10年」「転倒予防教室」「高齢者スポーツ」「舞台医学」と、武藤先生の活動領域はきわめて多岐にわたる。ただ、これらのすべてに一貫する武藤先生の基本理念がある。それは「予防と教育（prevention and education）」を重視することである。「予防に勝る治療はない」のである。

若手整形外科医の間におけるスポーツ医学の人氣は絶大だが、ともすれば「スポーツ医学＝手術療法」と考えられがちである。手術療法は、スポーツ医学における重要な治療手段であることには間違いないが、それはスポーツ医学の一要素にすぎないことに、ほどなく若き医師は気づかされる。傷害の発生・再発予防の取り組みや、保存的治療

や術後療法としてのリハビリテーション、さらには練習方法等の指導を含めて、アスリートを全人的に治療していくことの重要性を本書は教えてくれる。

本書では、スポーツ医学に関連した新しい医療分野として「舞台医学」が紹介されている。オーバーユースなどによる身体的障害に悩むミュージシャンやダンサーなどの舞台人は予想以上に多い。それらに対する医学サポート体制の構築は喫緊の課題であり、それを担うのが舞台医学である。武藤先生は、わが国における舞台医学の「仕掛け人」であり、かつリーダーなのである。

武藤先生が本書の中で引用しておられる「人生は舞台、男も女も皆役者」というシェークスピア戯曲の台詞は感動的である。武藤先生こそが、人生の舞台において様々な役どころを見事に演じ分けてこられた「名優」であると言える。そして本書は「スポーツ医学」という演目を演じようとしている役者の卵たちへの名優からのメッセージである。本書に描かれる名優の背中から多くのことを学び取り、続々と次代のスターが生み出されていくに違いない。



山下敏彦（札幌医科大学医学部整形外科学講座）
〔南江堂、定価 2,750 円〕